

「県政タウンミーティング」会議録

テーマ 学校で知事と語ろう ～若者の声を県政に～「農業高校生と語る長野県農業の将来」

日 時 平成26年6月12日（木） 16時30分から18時まで

場 所 北佐久農業高等学校（佐久市岩村田991）

目 次

1 開会 P 2
2 知事 冒頭あいさつ P 2
3 意見交換 P 2
4 知事 結びのあいさつ P 2 6
5 閉会 P 2 8

1 開 会

【広報県民課長 土屋智則】

皆さん、大変お待たせをいたしました。それでは、北佐久農業高校の生徒の皆さんと阿部知事との県政タウンミーティングを始めてまいります。私は、進行を務めます、県庁広報県民課長の土屋智則と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

今日は、「農業高校生と語る長野県農業の将来」というテーマで、タウンミーティングを行います。まず初めに阿部知事からごあいさつを申し上げます。

2 知事あいさつ

【長野県知事 阿部守一】

皆さん、こんにちは。北佐久農業高校の皆さんには、本当に、玄関前で熱烈歓迎をしていただきまして、大変ありがとうございました。今も校内を回らせていただいて、ヤギを飼ったり、トマトの栽培をしたり、いろいろな、私から見るとすごく生き生きとした青春を送っているなどと思って拝見をさせていただきました。

今回、県政タウンミーティングということで、私も何回か県内の学校を訪れて、若い皆さんと、これからの県政をどうしようかという話をしてきましたけれども、農業高校へ来るのは今回が初めてということで、非常に楽しみにしてきました。ぜひみんながいつも考えていることとか、あるいは未来の長野県、こういう県にぜひしたいということをどんどん積極的に発言をしてもらえると大変うれしく思いますので、よろしくをお願いします。

時間が1時間弱ぐらいしかありませんけれども、その割には人数が多いから1人の発言時間が短くなってしまいかもしれませんが、ぜひ多くの皆さんに発言してもらって楽しい会にしたいと思いますので、よろしくをお願いします。今日はありがとうございます。

3 意見交換

【広報県民課長 土屋智則】

ありがとうございました。それでは意見交換に入ってまいります。時間の都合上、皆さんお一人お一人の自己紹介というものは行いませんが、なるべく、今も知事から話がありましたように、多くの皆さんに積極的にご発言いただければと思います。その際に、ご自分のお名前と簡単なプロフィールを言っていただければありがたいなど

思いますので、よろしくお願いいたします。

【進行役生徒】

本日はよろしくお願いいたします。進行をするに当たり、座ったままの発言となりますがご容赦ください。

さて、改めまして、本日は本校を県政タウンミーティングの会場として選んでいただきましてありがとうございます。このような機会に接することはほとんどないので、私を含めみんな緊張していますが、よろしくお願いいたします。まず、本校の紹介をスライドで行いますのでご覧ください。

<学校紹介>

【生徒A】

阿部知事、ようこそ北佐久農業高校へ。私から、本校の特色について紹介します。

本校は、くくり募集、コース制という学習の方法をとっています。1年生では、全員が同じ農業科目を学習し、2年生からは、環境技術コース・野菜技術コース・草花技術コース・動物活用コース・乳肉加工コース・食品科学コース・食品活用コースの7つのコースに分かれて農業の学習をします。自分の興味・関心・進路を考えてコースを選択します。

本校には他校にはない特色があります。その1つが、菱池農場での搾乳宿泊実習です。県内には農業科を置く学校が12校ありますが、乳牛を飼育し搾乳をしているのは本校だけです。

授業が終わったら集合し、17時に菱池農場へ行きます。初めに、先生と協力して味噌汁をつくったり、お米をといたり、夕食の下準備をします。18時から搾乳を開始します。全校生徒が必ず1年で最低1回は宿泊実習をします。私も1年生の時は、牛の大きさに恐る恐るでしたが、今は搾乳実習が楽しみです。牛のかわいい目が、私はたまらなく好きです。

搾乳が終わると、牛の朝ご飯を用意します。その後、みんなで夕食を食べ、レポートを書き、お風呂に入り、22時には就寝します。

次の日は、5時半に起きて6時から朝の搾乳を開始します。その後、朝食を食べ、学校へ行きます。宿泊実習の次の日は眠いですが、乳牛の飼育管理・搾乳実習を通して、牛乳の生産の仕組みを理解するとともに、衛生管理の重要性を理解し、食の安全・安心について勉強します。また、宿泊を通して、先生や仲間との絆が深まります。

次の特色は岩村田小学校との交流です。今年で13年目になります。今年、餅米を栽培し餅つきをしたり、野菜を栽培したり、コスモスを栽培し佐久平駅に飾ったり、ジャムやパンをつくったり、牛について勉強し、搾乳を体験し、その搾った牛乳でア

アイスクリームをつくったり、10講座で延べ522名の小学生と交流を計画しています。この交流では、私たちが先生役をすることで、自己の知識や技術を再確認したり、コミュニケーション能力が向上したり、小学生がけがなどをしないように配慮することから、安全や衛生の学習にもなります。

次の特色として、高校生チャレンジショップがあります。空き店舗の有効活用により岩村田商店街の活性化を目指します。平成22年度よりスタートし、今年度は本校農産物の販売を10回計画しています。地元の高校生がいかに地元の商店街を盛り上げられるか、まさに高校生のチャレンジです。この活動により、流通に関するノウハウを学んだり、企画力が身についたり、コミュニケーション能力が向上したり、また、今話題の農業の6次産業化についても学習できます。

このほかにもいろいろな特色がありますが、本校は、地域に愛されている、開かれた学校です。幼稚園のお散歩コースになっていたり、多くの地域の方が農産物を買いに来られます。私も北農が大好きです。

普通高校では味わえない、ほかの農業高校でも味わえない、やりがいがいっぱいあります。北農に入学しこの学校を卒業できることを、私は誇りに思います。北農はそんな学校です。以上で紹介を終わりにします。

<農業について>

【進行役生徒】

それでは、事前に提示させていただいたテーマ、それぞれについて意見交換を行っていきたいと思います。最初に本校の就農志望者を代表して、お願いします。

【生徒B】

今、自分は農業についての思いが2つほどあります。1つは、3年生で具体的に進路を考える時期になり、友達の中には、非農家ですが農業に熱い情熱を持ち、将来、農業をやりたいと思っている友達がいます。私の家は葉物野菜の専業農家なので、土地も農業機械もそろっていますが、非農家の友達は土地も農業機械もそろっていない状況です。

多くの若い仲間と農業を盛り上げていきたいと思うのですが、若者が新規で就農、農業を始めるのは大変なことです。若者の新規就農希望者へ土地や農業機械を無償で貸し出してくれる政策などがあれば大変助かります。トラクターは200万円ほどで、車を買えるほどです。農業に熱い情熱を持っているが、土地も農業機械もない非農家の高校生が、高校卒業後すぐに新規就農できる道があってもいいんじゃないかなと思っています。

2つ目は自分のことですが、就農に対する不安があります。それは、冬期間、農業

収入がなくなってしまうことです。父は、冬、土木建設関係のアルバイトに出ているんですが、なかなか家族を養えるだけのお金は稼げません。通年で農業収入が得られるように施設での栽培なども考えたいと思いますが、施設にはお金が必要です。収入の安定性を考えると、専業をやめて兼業農家になることも考えてしまいます。この点も農業後継者不足の原因の一つだと思いますが、私自身、農業収入がなくなる冬期間の生活が大変不安です。例えば、うちと同じように葉物野菜を生産している川上村では、冬にはイチゴの生産を行っているんですが、私たちの地域の冬栽培に適した作目がイチゴなのか、別にあるのかは、これからまた勉強していかなければならないことなんです。仮にそういうアイデアがあったとしても、それにチャレンジするためのバックアップというか、後押しが必要なんじゃないかと思います。ぜひお願いします。以上です。

【進行役生徒】

ありがとうございました。では、知事は今のような意見を受けてどのようにお考えですか。

【長野県知事 阿部守一】

まさに今の話は、農業の、本質的な課題をどうするかということだろうと思います。本質的な課題というのは、一つは、ほかの仕事以上に、生産設備とか機材が最初に必要なわけですね。土地も必要だし。それは、何も持ってない人たちが一体どうするかというところは、そもそも農業をどうやって振興するかという話の根源的なことなので。市町村とかJAによっては、機器の貸し出しをやったりしているところはあるけれども、多分、まだまだそれでも入り口としては、ハードルが高いだろうなと思います。

この課題は、安易に参入できるようにしていけばいいのかというと、やはりある程度しっかり経営の見通しを立てて参入してもらわないといけない部分もあると思うので、全て何かそろえ、誰でもウエルカムという話にするのが、必ずしもいいことだとばかりは言えない部分もあると思います。ただ、やはり最初に何も持ってない人たちのサポートをどうするかというのは、しっかり考えなければいけない話だと思います。

特に、皆さんは農業高校で学んでいるので、農業のいい面とか、大変な面とか、すごくわかってきていると思いますが、農業の本質的なところがわからない人たちがあまり何か簡単に、夢ばかり見て農業に参入して、後で大変だったという話になってしまってもいけないし、しっかり農業知識を学びながら、そういう生活の道筋を自分たちが見つけられるような手助けを、行政はしっかりしていかなければいけないだろうと思います。

そういう意味で、今、農業大学校の改革とかやっていて、どちらかというと農業教

育というのは、皆さんのところもそうだと思うんですけど、栽培をどうするかとかという話を、これまでは比較的力を入れてやってきていますけれども。きちんと経営、農業も産業として捉えたときに、やはり経営的な視点がすごく重要なので、その経営をしっかりとやる。さっきもコミュニケーション能力とか、そういう話がありました。が、これからの農業は、いい物を一生懸命つくるということはもちろん基礎として大事だけれども、それだけではなくて、マーケティングをどうするのかとか、販売するのならコミュニケーション能力をどうするのかとか、あるいは永続的な農業経営をやっていくのであれば、しっかりとした経営をどうするのかとか。そういういろいろなことをしっかりと学んでいかなければいけないので、そういうことをサポートするような手助けを、行政としてはやっていこうと、今、思っています。

初期投資の話は、私もそうだと思いますので、宿題として持ち帰るようにしたいと思います。

それから冬期の話は、これも今の、全体としてどう資源を配分して永続的な経営としてマネジメントしていくかということと、多分、一体の話なので、もちろん自然と向き合いながら進めていかなければいけないのが、農業の楽しさであると同時に厳しさでもあるので、そここのところは、通年でどういう物をつくって、あるいはつくれない時期は、どういう形で暮らしを、生計を維持していくかということは、多分、地域とか、その人のライフスタイルによって大分違って来るだろうと思います。

そういうシーズンにどういう物を栽培すればいいかというのは、県の農業改良普及センターとかで、助言はできると思います。けれども、基本はやはり自分でどうマネジメントしていくかということだろうと思いますので、また、そういうこともぜひ、しっかり皆さんで研究してもらって、やはり農業経営が持続可能になるにはどうすればいいかということ、ぜひ一緒に考えてもらえればありがたいなと思います。よろしくお願いします。ありがとうございました。

【進行役生徒】

ありがとうございました。今の知事のお話を受けて、何か意見はありますか。

【生徒C】

先ほどの発言では、冬期間の仕事がなくなることを心配していましたが、私の家は全く正反対です。私の家は酪農をしています。私は将来、家の酪農を継ぎたいと考えていますが、乳牛を飼っていると、搾乳があるので365日休みがありません。子どものころ、泊まりで家族旅行に行けなかった寂しい思い出もあります。どうしても休みをとらなければいけないときは、酪農ヘルパーという制度があり、ヘルパーさんをお願いします。ヘルパーさんを1回頼むにつけ1万8,000円かかります。酪農農家がもっと気軽に休みをとれる制度や、予算的な配慮はできないでしょうか。私の夢は日本一の

おいしい牛乳をつくることです。以上で終わりにします。

【進行役生徒】

ありがとうございました。知事は、今のような意見について、どのようにお考えですか。

【長野県知事 阿部守一】

そうですね、酪農ヘルパーという人がいるというのは、私もよくわからなかったんですけど、年間何日ぐらい、そういう人たちを、今、頼んでいるんですかね。お金がもっとあればもっといっぱい雇えるのに、報酬が高いからなかなか雇えない、そういう感じなんですかね。

【生徒C】

今のところ、自分もよくわからないんですが、家で忙しいときは父が頼んでいます。

【長野県知事 阿部守一】

それはどういう方たちに頼んでいるんですか。

【生徒C】

私の家の場合は、ヤツレンという会社の人たちにヘルパーとして頼んでいます。

【長野県知事 阿部守一】

これは、農業に限らず、社会全体、ワーク・ライフ・バランスというふうに言われていて、仕事と家庭、仕事と社会生活のバランスをとりましょうという方向で考えている中で、ただ、そういう視点での議論があまり行われきてないのが、農業・林業の分野なんだろうなと思っています。これは、どんな職業であっても、やっぱり今お話があったように、24時間、365日、気が抜けないなという話であり続けていいとは、多分、誰も思っていないので、そこは、農業振興という観点よりはむしろ、仕事と家庭のバランスとか、仕事と地域社会のバランスみたいなものをどうとるかということを考えていかなければいけないだろうなと思ってお話を伺いました。農政部は何かそういうことは考えているの。

【佐久農業改良普及センター所長 相馬正博】

佐久の農業改良普及センターの相馬と申します。よろしく申し上げます。

畜産には休みがないということで、大体、それぞれヘルパーの組合ですとかをつくって、代わりにやる人を雇って幾らか支払うというような制度で、大体はできており

ます。値段の話ですが、それは何とも言えませんが、一応、どうしても自分ができないときは、そういうところへ頼んで管理をしてもらおうというのは、それぞれ各地域でできております。

【長野県知事 阿部守一】

何かそういうのって、今、実態がどうなっているかわからないけど、やはり、酪農経営自体がもう少し組織化していったほうがいいのか。でもその家庭、家族でやっている良さと、法人でやる良さと、メリット・デメリットが、多分、両方あって、家族経営の良さを維持しながら、でももっと休めるようにしようということを追求するとしたら、どうすればいいんですかね。どうすればいいんですかねって、私が質問してもいけないかもしれないけど。多分、みんながそういうものを本当に考えていったほうがいいんだろうと思います。

私は別に全知全能の人間でもないので、多分、市場原理で回っているところを、例えば県が補助金を出してやりましょうというのは、それはあり得るかもしれない。あり得るかもしれないけれども、では県の財政が厳しくなったから、その補助金は打ち切ったときに、ではそれで後どうするんだという話にはなりかねないので。持続可能な仕組みとして、今、話をしてもらったような課題をどう解決するかというのは、多分、実際にかかわっている人たちが、ではどれぐらいの報酬水準ならそういうときに応援に行けて、では酪農経営との関係でどれぐらいなら、そういうものにちゃんと耐えられるような経営ができるのかということのバランスなんだろうと思うんですね。そういうことは、ぜひみんながもっと研究して行って、やはりここは、どうしてもそれは行政の責任としてやるべきじゃないかというところは、どんどんウエルカムで提案してもらえばありがたいなと思います。

私も、今、お話を聞いたので問題意識は共有しますので、ぜひ何かみんなでそういう研究をしてみてください。どこが一番ネックなのか。その報酬が高すぎるからいけないんだとすれば、いけないんだとすればというか、だけどそうは言っても適正な対価をもらわなければそんなところへ応援に行けませんなんていう話にもなりますし。ではもっと払えるような、酪農経営自体がもうかるようにするほうがいいのか、それとも今の仕組みの中で何らかの形でそのコストを削減していったほうがいいのかとか、多分、幾つか方向性があり得て、では本当に実現可能性が高くて持続可能な仕組みはどれなのかっていう観点で、みんなで考えてもらおうといいんじゃないかなと思います。ありがとうございました。

【進行役生徒】

ありがとうございました。今の知事のお話を受けて、何か意見はありますか。

【生徒D】

私は、将来、ドックトレーナーになり、人と動物の関係を深めていけるための仲介者としての職に就こうと考えています。そのために本校で農業について学ぶ中で、私は農家と非農家の仲介者はいないのかということについて考えるようになりました。就農したいが、経営が成り立つのかが不安、そのような、なりたいけどなれないという人がたくさんいるかと思います。

私は、今の農業後継者が少ないと言われる中で、このような人材はとてももったいないと思います。先ほどの質問の答えになるかと思いますが、私の考えは、例えばこのような人たちを農家と非農家の仲介者とすることができたら、農家に対してはヘルパーとなることで経営の負担を少しでも軽減することでき、非農家にとっては身近に感じられる農業となることで興味・関心を持ってもらえ、農業後継者の増加につながるのではないのでしょうか。長野県が農業県としてこれからも続いていくためには、このような政策も必要だと私は思います。少しでもお考えいただければ幸いです。以上です。

【進行役生徒】

ありがとうございます。では知事は今の意見を受けていかがですか。

【長野県知事 阿部守一】

ごめん、最初のほう、よく聞こえなかった。どういう政策を考えればいいって、今、言ってくれたの。

【生徒D】

私は、農家と非農家の間に少し大きな隔たりがあると思ったので、その間に入れる仲介者、架け橋みたいな人たちがいればいいと思っています。その中で、例えば私たちのような農業高校生が、もし将来、農業から離れるとしても、その仲介者となることで、ヘルパーや、非農家の方たちにとっては身近に感じられる農業としてできるのではないかと思いました。

【長野県知事 阿部守一】

社会全体で見たときに、さっきの冒頭の話があったけど、農業に参入するということが、就農するということが自体を、選択肢として意識していない若者っていうのがすごく多いと思うんですね。そもそも人口が都会に集中しているから、都会の若者はそもそも農業なんていうものには接したことがなかったりするし。仮に農業をやろうと思っても、そんなもの、土地が一体どこにあるんだと、農機具はどうするんだということになるので。多分、今、話があった、農業を営む人たちと、本当は農家の人たち

に暮らしを支えてもらっているんだけど、多くの消費者の人たちとか一般の人たちのギャップというのは確かにすごくあるんだと私も思います。このギャップを本当は解消していくというか、全く同じレベルの問題意識にするというのもなかなか難しいと思うんですが、お互いがお互いをもっと知っていくということは、すごく大事な話だと思います。

私は昔、横浜市役所にいました。横浜のJAはすごく大きなJAだけど、横浜市全体を見ると、農家のウエイトというのはすごく少なくて。やはり生産者の思いは消費者には伝わっていないし、逆に消費者のニーズも必ずしも生産者にしっかり伝わっていないのかなと感じています。みなとみらいでJAの人たちに直売をやってもらって、そういうところで、生産している人たちの思いと、消費されている方が、直接、ふれあって会話をすることによって、その意識のギャップが、生産者の皆さん、やっぱりこういう苦労があるんだなど。逆に生産している方たちは、消費者はこういう物を求めているんだなどというのが、すごくわかるいい契機になったという経験があります。

ただ横浜と違って長野県の場合は、都市部よりは、相当程度、生産者と消費者は、近いんだらうと、私は思います。すぐ身近なところに農業を営んでいる方たちが、結構、うちの県の場合はあるので、都会や大都市ほどのギャップは、あまりないのではないかと考えています。だけど多分、本当のところ、お互いのコミュニケーションとか、理解がしっかりできているかという、やはりそこはギャップがあるんだらうなと思って。そういう意味で、コーディネートする人だったり、中間的な立場で、農業のことも消費者につないで、消費者のことも農業につなぐという人たちは、私は、おっしゃるように必要なんだということなので、多分、それを今やっているのは、我々行政だったり、あるいはJAの人たちだったり、農業関係の仕事をしているけれども、必ずしも自分で農業をやっている人たちじゃないという人たちが、今言ったような役割を果たしてきているんだらうと思います。

そういう人たちが、今、政府でも農協のあり方をどうするかということが議論されていて、規制改革会議で出ているような意見が、直ちに私は地域にとっていいかどうかというのは、もっと慎重に議論してもらわなければいけないなと思います。ただ、農業を周辺で支える我々行政も含めて、これからどうしていくかということは考えていかなければいけない時期には来ているんだらうと思います。そういう意味で、今日、県の職員もいるけれども、私は、さっきから何度も言っているように、これからの農業は、多分、いい物をつくっていますということだけで済まない時代になってくると考えています。それはやはり市場を開拓して、しっかりとマーケティングをしたりPRして、それで長野県であれば長野県の農産物の特性を生かした販売戦略、生産戦略を立てていかなければいけないので、そういう部分を農家の皆さんにもっと身につけてもらおう。あるいは農家の皆さんが、そういうところまでなかなか十分対応しきれないところは、我々行政とか農業関係の人間が、もっとしっかりとサポートできる体制

をつくっていかなければいけないのだろうと思います。そのところは、まさにこれからの農政をどうするかということとセットの話として、私は受けとめて対応していきたいなと思っています。もう少し具体的にこんなことをしたほうが良いということであれば、また言ってもらえればと思います。よろしくお願いします。ありがとうございました。

【進行役生徒】

ありがとうございました。今の知事のお話を受けて、何か意見のある人はいますか。では、ほかに農業について、意見のある人はいますか。

【生徒E】

私の家は川上村で専業農家をやっています。高原野菜で有名になった川上村ですが、幾つかの問題もあります。そのうちの一つについて話させていただきます。調整廃棄についてです。調整廃棄とは、出荷が盛んな時期に野菜の価格が低下するのを抑えるために行われる野菜の廃棄のことです。川上村ではお昼の時間などに各地区の支部から放送が入り、「レタス100の調整廃棄です」と流れます。そのとき、両親は「また廃棄か」と悲しみます。自分たちが育てた野菜が消費者のところへ行くことなく、畑に積み上げられているのを見るととても残念に思います。私は知事がこの調整廃棄についてどう思われているのか、また県で何か対策を考えているのかをお聞きしたいと思いました。以上です。

【進行役生徒】

ありがとうございました。では知事の意見をお願いします。

【長野県知事 阿部守一】

農産物、農業の課題は、幾つかあるんだけど、多分、今の調整廃棄の話も含めて、価格が非常に不安定だというのが、一番大きな経営上の課題だろうなと思います。そういう意味で、必要やむを得ざる対応としてそういうことをやってきていますけれども、本当は、資源の有効活用からするともったいない話だろうというのが、多くの人たちが感じていることだろうなと思います。

これは、流通の話も含めて、食をどう考えていくのかということも、もう一回捉え直していかなければいけないと思います。日本は食料を相当輸入している一方、莫大な食品廃棄物が、食べ残しというか、食べていないものすら廃棄しているという国になってしまっています。本当はもっと食に対して真剣に向き合って大切にしていけば、今のような量を海外から輸入をすることなしに、本当は対応できるだろうと思います。これは、日本の農業をこれからどうしていくかということにかかわってきますけれど

も、私は、地産地消ということが言われていますが、やはりその土地に合った物をしっかりと生産して、しっかりと消費していくということを志向していかないと、これから日本は人口減少だけれども、世界全体はどんどん人口が増加していく中で、食料とか水とかエネルギーは、確実に、世界的な視野で見れば足りなくなってくると思っています。

そういう中で、もっと身近にある物を、あるいは国内にある物を、どうすれば有効に活用できるかということもしっかりと考えていかなければいけないと思いますので、そういう中で、今の、食用にできるにもかかわらず廃棄しなければいけないというような問題とか、あるいは類似の課題で、大量の流通に乗せるためには、形が整っていないければなかなか乗せられないみたいな話もあって。そういう意味では、日本全体の食料をどう確保していくかという観点で考えていかなければいけない課題だと思います。

今の問題について、明確な答えにはなっていないですけども、やはり自分たちがどうやって食を確保していくかということ、そして日本全体が今どういう状況に世界の中であるのかということを中心に大きな視点で考える中で、もう一回、食品の生産とか流通とかの話をつまみ直していかなければいけないと思います。ありがとうございました。

【進行役生徒】

ありがとうございました。今の知事のお話を受けて、何か意見はありますか。ではほかに農業について意見のある人はいますか。

<地域連携について>

【進行役生徒】

では、次の話題に移りたいと思います。本校では、地域に開かれた学校を目指しており、地域連携も盛んに行われています。この地域との連携ということで、意見をお願いします。

【生徒F】

北農では地域の方々との交流が盛んです。岩村田本町商店街では、チャレンジショップを開き販売実習を行ったり、祇園祭や大船渡復興支援などの商店街のイベント運営を手伝ったりしています。また、小学生との交流や動物を利用した地域の方々との交流なども行っています。これらを通して、私たち自身もさまざまなことを学ぶことができますし、私たちの学校のあるこの佐久地域が少しでも元気になったらいいと考えて、活動を行っています。こういった活動を通して、地域に愛着を持つことができますが、将来、この地域で就職をしようとしたときに、今、地域を支えている企業

がどれだけ元気で、私たちの就職先として存在しているかが、不安な部分もあります。県としては、こういった地域を支えている商店街や企業などについて、こういった姿勢で向き合っているのかを教えてくださいたいと思います。

また、実際に地域に出て活動してみると、地域の方々は非常に協力的ですし、私たちとも年齢の近い、若い人たちが活躍しているのを見て、カッコイイと思っています。こういった地域との交流を、私たちだけではなく、もっと多くの高校生がかかわる仕組みができないかなと思っています。そうすることで、みんながこの地域を好きになったり、この地域で暮らしたいと思うようになって、もっともっと地域が活性化するのではと考えています。そういった地域と高校生をつなぐ仕組みづくりみたいなものは何かありますか。以上です。

【進行役生徒】

ありがとうございました。では知事の意見をお願いします。

【長野県知事 阿部守一】

さっきのスライドにもありましたけれども、北佐久農業高校は地域の皆さんと一緒にいろいろなことをやっていて、大変いいなと思っています。今、話があったように、若い人たちが地域に定着して、地域で暮らして楽しいなと思ってもらえないと、長野県全体がどんどん衰退していってしまうので、今の話は、県全体としてもすごく重要なテーマだと思っています。

県としてどうしているのという話は、例えば、今度、新しく中小企業振興条例というのをつくって、地域の中小企業を県としてもいろいろな形で応援していきましよう。さっきの農業の話の地産地消じゃないけれども、なるべく、例えば地元の企業の物を買うようにしましようということも進めていかなければいけないと思いますし、商店街の関係では、商工会の皆さんと一緒にあって、今、後継者がどんどんいなくなっているので、後継者探し、後継者対策を県も一緒にやっていきましよう。昔はどんどん人口が増えていたので、後継者どころか、次男、三男はどこかへ行って働けという時代が長く続いたけど、今はもう人口がどんどん減っている中で、これは商店街とか農業だけの問題じゃなくて、本質的な問題として後継者が少ないという話になってきているので、そういうところは、しっかり見つけてマッチングさせるということをやっていく必要があると思っています。

それからもう一つ、もっといろいろの観点がありますが、私はやはり、ぜひ若い人たちには、農業を自分でやっていくということもそうですけれども、いろいろな分野でぜひ起業をしてもらいたい、創業をしてもらいたい。自分で仕事をやる。県も日本一創業しやすい長野県を目指すということで、創業サポートオフィスをつくったりとか、あるいはその融資制度、事業を立ち上げるときの融資制度もかなり手厚い制度

に変えてきています。事業を始めてからしばらくは、県への法人事業税も納めなくていいというようなこともやっています。もちろん企業に入る、農業の後継ぎになるということもいいですし、もう一つの選択肢としては、自分で事業を起こす、そういうことも視野に入れてもらえるとうれしいなと思っています。

この若者が住みやすい、若者が暮らしたいまちづくりというのは、実は大きなテーマなんで、どうすれば住み続けたいとか、どうすればもっと楽しい暮らしになるかというのが、何か、皆さん、高校生の立場で意見があったら、逆にちょっと後で教えてもらいたいなと思います。

あと高校生たちの意見の話で、最近、県内でもいろいろな高校生の動きとかはこのごろ動きが出ていて、高校生会議って、この間も、私、上田に行って、高校生たちが集まって、いろいろな、青年海外協力隊へ行っていた人たちの話を聞いて、自分たちでどんな国際交流ができるかというのを話したりする動きが出てきています。そういう動きを、私たち長野県も応援していきたいなと思っていますし、信州若者サミットというのものも、これは高校生よりもう少し上の大学生中心の集まりなんですけど、そういう動きも出てきています。どうしても年齢構成、平均年齢がどんどんどんどん上がってきている中で、私が知事として付き合う人たちの年齢は、皆さんのお父さんよりもっと上のおじいさん、おばあさん世代の人たちと話をする機会がどうしても多いなと感じているので、意識的に若い人たちと交流をするようにしていきたいと思っています。よろしくをお願いします。

【進行役生徒】

ありがとうございました。今の知事のお話を受けて、何か意見はありますか。ではほかに地域連携について意見のある人はいますか。

【生徒G】

私は畜産部ヤギ班に所属しています。ヤギ班では、過去、多くのイベントに協力してきました。先日も、南パラダ（佐久パラダ）で行われた「花と緑と動物ふれあいフェスタ」に参加してきました。イベントの内容は、牛乳の無料配布、搾乳体験、ヤギ・子牛とのふれあいをしました。イベントを通して数多くのお客様と接し、たくさん笑顔を見ることができました。私は、イベントを通して地域の方と交流することで、地域の活性化にも役立つと思います。これからもイベントなど、数多くの地域の方と交流することができればいいと考えています。ぜひ知事の考えをお聞かせください。

【進行役生徒】

ありがとうございます。では知事、お願いします。

【長野県知事 阿部守一】

地域の活性化、ぜひ若い力で地域を元気にしてもらいたいなと思っていますし、今日、北佐久農業高校へ来てほんの少しだけ見せてもらったけど、卵をパックに詰めたり、トマトの収穫をさせてもらったりして、何というか、極めて単純な話だけど、楽しいわけですよ、楽しい。みんなは楽しいですか、学校でやっています。楽しいよね。多分、地域の活性化とか何か片意地張ったことを言わなくても、ヤギとみんなと遊ぼうよみたいな、自分たちが楽しいことをもっと人に広げていこうよということが、地域の元気と私はつながっていくんだらうなと思います。何か難しいことを考えるよりは、自分たちがどうすれば楽しめるのか、自分たちにとって楽しいことって何かということを追求することが、結果的には地域が元気になるということにつながってくるんだらうなと思います。

さっきの商店街とかの話も、何とか町を元気にしなきゃいけないという使命感だけでやっていると、町が元気になるとは思わないんですよ。むしろ何か、この町をこういうふうにしたらとか、あるいはこんな仕事をしたら楽しいだらうなという思いが伝わっていくと町も元気になっていくので。何かそういう意味で、自分たちが楽しめること、自分たちが有意義だな、やりがいがあるなと思えるようなことを、ぜひ一つでも多く見つけて実践していただければいいんじゃないかなと思います。ありがとうございます。

【進行役生徒】

ありがとうございました。ではほかに何か意見のある人はいますか。

<新校について>

【進行役生徒】

では次の話題に移りたいと思います。ご承知のとおり、来年度には新しい学校、佐久平総合技術高校が開校します。今の1・2年生は既に新校のカリキュラムで学習をしています。この新しい学校で学べるという点で意見ををお願いします。

【生徒H】

現在、「光質の違いがジャガイモの生育に及ぼす影響」について研究しています。私の住む佐久市は年間の日照時間が2,200時間を超え、全国平均よりも500時間も長い快晴の日が多い地域です。私たちはこのすぐれた地域性を農業に活用したいと思い、いろいろな被覆資材を使ってトンネルを設置し、太陽光線を光合成が活発にするさらに強力な光に変換できないか研究を進めています。私は、この膨大な太陽光線を効率的に利用する研究を、植物工場の水耕栽培技術に活かしたいと思っています。さらに工

業科の生徒と協力して、植物工場に関する研究を共同で行えれば、お互いの弱点を補いながら学習ができるのではないかと思います。農業・工業の学科連携として植物工場を学ぶための施設や設備を、佐久平総合技術高校に導入していただけないでしょうか。

また、これからの農業は、生産だけをして後は人任せというだけではやっていけません。農産物の加工・流通まで行っている生産者の方々が成功しています。こういった農業の6次産業化に向けて加工品の開発が具体的にできる実践的な知識や技術を学びたいと思っていますが、長野県としては、この部分についてどのように取り組んでいるのでしょうか。それと、6次産業について中心的な役割を果たしている機関がありますか。あれば、学習を進める上で、このような機関からの開発のアドバイスや研究の連携は可能でしょうか。なければ、こういった機関についても考えてもらいたいと思っています。以上です。

【進行役生徒】

ありがとうございました。では知事の意見をお願いします。

【長野県知事 阿部守一】

そうですね、植物工場というのはどんなものを想定しているんですか。

【生徒H】

現在、北佐久農業高校では、知事も言っていたトマトの栽培をしているガラス張りのハウスを植物工場として扱っています。佐久平総合技術高校では、さらに設備をよくして、施設のガラスなどが自動で開いたりするような設備を設けてほしいと思っています。

【長野県知事 阿部守一】

なるほど。教育委員会は検討するという話なんだよね。そういうふうに言ってくれています。これ、せっかく新しい高校になるので、工業科も一緒になって同じキャンパスで学ぶという特性が生かせるようなことを、やっていく必要があると思いますので、そこは、ぜひ、校長先生に提案して、教育委員会とよく相談してくださいという話を、私から、今、お願いしておきます。

ぜひ、今、言ってもらったように日照時間が長い地域ですしね。長野県内も自然エネルギーの普及を広げていこうということでやっていますが、住宅用太陽光は、日本で一番、長野県が進んだ普及率に、今、なってきましたし、その中でもこの佐久地域は、そういう意味での優位性は強い地域です。だから、それを工業と結びつけて、農業生産にどう活用できるかということ、ぜひしっかり考えてもらえるとありがた

いなと思いますし、そういう観点で、どんな施設が本当に必要なのかということは、ぜひ教育委員会と学校で相談をしてもらえればいいなと思います。

それから6次産業化の話は、今、全国的に6次産業化をどんどん進めていこうということで、ファンドをつくったりして、積極的な応援体制を組んでいます。さっきから言っているように、多分、今までの農業は、とにかく品質の高い農産物をつくれば売れるという時代もあったかもしれないですけど、やっぱりこれからは、いろいろな形で付加価値をつけていかなければいけないということもありますから、ぜひそういう観点で取り組んでいてもらいたいし、農業改良普及センターに相談すれば、そこはサポートをしてもらえます。

【佐久農業改良普及センター所長 相馬正博】

県のほうでも6次産業化ということで、それぞれ、普及センターですとか、地方事務所農政課、それぞれ担当ができる場所がありますので、何かいいアイデアがありましたら、ぜひ出していただきたいと思います。

【長野県知事 阿部守一】

お願いします。これは、6次産業化って、どちらかというと農業側の視点でやっているわけですが、それも私は必要だし、どんどん伸ばしていかなければいけないと思います。もう一つは、加工する人たちの、食品会社とか、1次産業側からのアプローチだけじゃなくて、2次産業、3次産業側からのアプローチとか、いろいろ複合的にやっていかなければいけないだろうと思っています。

そういう観点で、今、しあわせ信州食品開発センターというのを新しくつくろうということでやっています、それは、どちらかというと加工側の話です。でも例えば、さっきもここでつくっている味噌があって食べさせてもらいましたけれども、そういうものを試作するところから一緒に考えましょうということも、県として力を入れてやっていきます。

農政部だけでなく、今度、産業労働部とか、あるいは、今、ワインという部分に特化していますけど、信州ワインバレー構想というのを進めて、ワイナリーというのはまさに、ブドウの栽培から、ワインをつかって、そして販売して、あるいはワイナリーに観光客に来てもらうというところまで、まさに6次産業の典型みたいな形です。そういうのも県としてしっかり応援していこうということで取り組んでいますから、農政部だけでなく、今、話で言えば観光部と一緒に進めていこうとしているので、どういう観点で6次産業化をやろうかなということに依じて、いろいろなところに相談できるような形になっていますから、自分のところはこれをつくってこういう形で6次産業化を進めようかなということが定まったら、地方事務所農政課や農業改良普及センターに相談してもらえば、それならこっちに相談してという話で

きちんとつないでもらえると思いますので、ぜひよろしくをお願いします。

【進行役生徒】

ありがとうございました。今の知事のお話を受けて、何か意見のある人はいますか。

【生徒 I】

私は、将来、農業系大学への進学を目指しています。そのため、本校では農業の基礎知識の学習や資格取得に力を入れています。来年度からは新校になり、農業以外にも目を向けるいい機会になると思います。ものをつくるという意味では、同じ共通点を持っていますが、お互い違う技術を持っている者同士、切磋琢磨していけるようなことを期待しています。先のことですが、新校が始まってみれば、いろいろな問題が出てくると思います。中には県の協力が必要な場面が出てくると思います。そのときは支援をよろしくをお願いします。以上です。

【進行役生徒】

ありがとうございました。では知事の意見ををお願いします。

【長野県知事 阿部守一】

もうそれは応援しますので、何か具体的にこんなことをしたらということがあれば、どんどん言ってもらえるとありがたいと思いますし、さっきこの校内で、みんなが一生懸命、卵をつくったり、キュウリをつくったり、トマトをつくったりして売っているので、あの収入を全部、県が財政的に召し上げているというのを少し変えられないかなというふうに思っています。また、それは、相談してください。そのほうがモチベーション上がるでしょう。どうなんですか、みんな売っていて、売ったお金が何かどこへ行っちゃっているかわからない、何かその辺の感覚をちょっと聞かせてほしいです。例えば私ができる応援って、そういうところからしか応援ができない。いきなり何か立派な巨大な施設をつくれと言われても応援できないので、そういうところからなら応援できると思っていますんですけど、どうなの、今のままでいいですか。みんな黙っちゃいましたね。

みんな、自分たちでつくった物を売っている人、売ったことがある人、売ったことがない人というのもいるんですかね。みんな売っているの。売ったことがある人は手を挙げて。売ったことがない人は。売ったことがない人もいるんだね。売ったことがある人は、自分たちが売ったお金は、どこへ行っているの。お小遣いはもらってないですよ。それは、どう思っているの。

【生徒 J】

自分は、その売ったお金、レタスとか野菜を文化祭とかで販売しています。売ったお金がどこに行っているのかは把握していません。先生方から聞いて、どうなったよというお話を言っていただければ、モチベーションになると思います。

【長野県知事 阿部守一】

なるほど。私が把握しておきます。ありがとうございました。

何かあったら協力しろという話なので、もちろん県立学校なので、県として、みんなが勉強しやすいように、みんなが充実した学校生活を送れるようにするのが私たちの仕事なので、それはいろいろな意見をどんどんまた言ってもらえればと思いますし、今、あんまり言うチャンネルがないかもしれないけど、例えば県民ホットラインというものがあります。あれは高校生でもいいんですよね。あれはどこに連絡すればいいの。ホームページを見て、県民ホットラインというコーナーがあるから、うちの学校、こんなことをしてほしいということがあれば、言ってもらえばいいですね。ということで、よろしくお願いします。ありがとうございました。

【進行役生徒】

ありがとうございました。ではほかに何か意見のある人はいますか。

【生徒K】

私が今から話すことは自分の目標になるんですが、将来、私は警察犬の訓練士になりたいので、警察消防コースのある専門学校に進学したいと思っています。そのために、動物活用コースで動物の種類や生育について学んでいます。また、私は畜産部ヤギ班に所属し、地域交流をし、地域の方や子どもたちに動物を好きになってもらえるように活動をしています。しかし、交流をする際に、大人のヤギを見て、子どもたちが「怖い」というふうに思ってしまう、なかなか近づいてくれなかったりすることがあります。

そこで私は、少しでもそういったことを軽減できるように、これからの部活動のなかで何かできないか考えたり、来年度は新校になりますが、ふだん身近にいない動物を見て驚いたりしてしまう生徒の皆さんも多いと思いますが、もっと動物を好きになったもらうために、今からそういった活動を考えていきたいと思っています。以上です。

【進行役生徒】

ありがとうございました。では知事の意見をお願いします。

【長野県知事 阿部守一】

ぜひ夢が実現するように頑張ってください。動物がすごく好きなんだ。子どもたちが怖がるっていうのは、どうしてそういうふうになっているの。

【生徒K】

ヤギだと、特に子どもの子ヤギとかだと、小さいころは目が結構丸くてかわいいんですけど、大人になってくると目が横になって、それが怖いっていう子が多いので、そこはちょっと解消のしようがないかなと思うんですけど。でも逆にヤギの長所を生かして、もっと動物、ヤギだけでなく、いろいろな動物を好きになってもらえるかなというふうに、はい。

【長野県知事 阿部守一】

なかなか、動物と接する機会がだんだん少なくなってきている子どもたちが多いので、そういう子どもたちに、ぜひ動物のよさとか、動物を飼う楽しさとか、どんどん伝えてもらえるとうれしいなと思いますので、よろしくお願いします。ありがとうございます。

【進行役生徒】

ありがとうございました。ではほかに何か意見のある人はいますか。

【生徒L】

将来、私は食品関係の会社に就職したいと考えています。そのために、現在、コースの授業で食品化学、食品製造について詳しく学んでいます。その中で、私は新校で食品製造だけでなく、食品開発についても学びたいと考えています。自分の開発した商品を皆さんに喜んで食べてもらうのが私の夢です。知事は、こんな食品があったらいいなと思っているものはありますか。あったら教えてください。

【進行役生徒】

ありがとうございました。では知事の意見をお願いします。

【長野県知事 阿部守一】

こんな食品があったらいいというのは、それは何だろうな。僕は、長野県の知事の立場からすると、やっぱり長野県にあるものを最大限生かして、世界で売り出せる食品があればいいなと思います。長野県だと、例えばいろいろな、野菜とか果物ですね。これ、世界のどこに持っていても引けをとらない品質の物がいっぱいあると思っています。けどなかなか日もちがしなかったりするんです。

今度、イタリアの南チロルで、長野県が開発した「シナノゴールド」という品種を、

今まで試験的に栽培してもらっていたんですけども、今度、本格的に商業栽培しようということで、多分、EU各国に「シナノゴールド」が出ていくという話になると思います。それは、長野県が原産のりんごがヨーロッパに広がっていくということで、とてもいい、うれしい話だと思っています。

それに限らず、やはり長野県の良さとか、長野県のすぐれた農産物を、もっと世界の国々の人たちに知ってもらえるような食品がどんどんできるといいなと思います。だから生鮮品だったら、運搬・流通をどうするかということになりますし、生鮮品以外で加工した食料品でも、例えば長野県、健康長寿県のイメージと一体として、世界に売り込めるような食品というものがもっとどんどんできれば。例えば、今でもおそばとか寒天とか、そういう物は、長野県の特産品としてすぐれた物だと思っています。そういう物をもっともっと増やしていくことができれば、長野県にとってもプラスになるし、世界の皆さんに対しても貢献ができるかなと思っていますので、何か斬新なものをぜひ開発してもらえればうれしいなと思います。ありがとうございました。

【進行役生徒】

ありがとうございました。では今の知事のお話を受けて何か意見のある人はいますか。

【生徒M】

私は、将来、パティシエールになりたいので、調理・製菓の専門学校に進学しようと思っています。そのために、今、コースで、食品学と食品製造の授業で、食材の特性や食品にかかわっている微生物などについて学んでいます。私は幅広い年代の人たちにおいしく食べてもらえるお菓子をつくりたいと思っています。そのために新校で、もっと製菓や調理について勉強ができる学校になってほしいと思っています。以上です。

【進行役生徒】

ありがとうございました。では知事の意見をお願いします。

【長野県知事 阿部守一】

製菓や調理について、勉強できる学校って、今よりもっと、どういうところを充実してほしいということなんですか。

【生徒M】

今は、調理室が家庭科とかと一緒になんですけど、やっぱり器具もそんなに多くないんで、そこがちゃんとしたものを見てみたいなと思っています。

【長野県知事 阿部守一】

もうちょっと設備を充実しろということですか。なるほど。それはよく校長先生と相談しないとわかりません。どうなんですか、校長先生、そこは。

【北佐久農業高校長 村澤博富美】

今の生徒さんの意見ですけれども、新しい学校になってきますと、先ほどの6次産業化というようなこととあわせてみますと、新しい食品の開発であるとか、お菓子も含めてということになりますと、今、家庭科の調理室はみんなで使っている状況で、非常に満杯の状況になっています。さらに、工業科、あるいは創造実践科というところと連携を図りながら、6次産業化をしていくというふうになってくると、食品を開発するような専門施設があればいいなということは、生徒のほうからも聞いたりしております。また検討してみたいと思います。

【長野県知事 阿部守一】

なるほど、わかりました。それは、結構大きな問題というか、各学校に回るたびに、これがほしい、あれがほしいと言われて、「はいはい」と言っていると、お金が幾らあっても足りなくなってしまうんですけども。少し何か工夫していかなければいけないですね。今は、県立学校だから、最終的には私が教育委員会の皆さんの意見も聞いて県の予算案をつくって、それで県議会に出して、県議会がそれでOKですよという県予算が決まるんです。

私は、全体的にもう少し分権型の予算にできないのかなと思っています。分権型の予算というのは、最後は私が予算案をつくって県議会に議決してもらわないといけないんですけども、例えば学校ごとにもう少し自由にしてもらえるお金って、今、ほとんどないですよ。もう少し、いつも私が全ての話を聞かないといけないということとか、いつも校長先生が頑張って教育委員会とかけ合わなければいけないというような状況ではなく、校長先生が、こんなことを子どもたちのためにやってあげたいなと思えばできるような仕組みを考えられないかと思っていますので、少しそこは研究してみたいと思います。ありがとうございました。

【進行役生徒】

ありがとうございました。ではほかに何か意見のある人はいますか。ではほかに新校に関して意見のある人はいますか。

【生徒N】

来年4月に佐久平総合技術高校が開校するわけですが、1校2キャンパスの不便さ

に不安を持っています。先日、北佐久農業高校と臼田高校とで合同ウォークラリーを開催しました。臼田高校がスタート地点だったのですが、臼田高校への移動手段として、大半の生徒がJR小海線を利用しました。その際、行き帰り往復で420円かかってしまいます。学校行事のたびにこのような移動をしなければならないとすると結構な費用がかかってしまいます。なので、移動のための補助などを出してはいただけないでしょうか。2キャンパス間でもっと頻繁に仲間が集まって生徒会活動やクラブ活動を行いたいのに、実際には難しいように思えます。これでは、同じ名前の学校でありながら、全く別の学校のような気がします。もっと交流や連携が活発にできるように協力をお願いします。以上です。

【進行役生徒】

ありがとうございました。では知事の意見ををお願いします。

【長野県知事 阿部守一】

それは、電車賃の問題なの、それとも何かもう少し深いことを考えなきゃいけないのですか、どうなんですか。

【生徒N】

どちらかという、いろいろな行事をやりたいので、一緒に集まってやりたいんですよ。なので、移動手段ですかね。

【長野県知事 阿部守一】

例えば一緒に行事をやろうというふうに思って集まろうとしたときには、今だと、小海線に乗って行かなきゃいけないの。ほかの手段というのはないの。

【生徒N】

今のところ、例えばそういう学年だけだったら、まだバスとかあれば、それでも行けると思いますが、文化祭などを行う場合、多人数で学校から移動しなければならないことがあるとすると、移動手段が必要かなと思います。

【長野県知事 阿部守一】

それは、今、どうしようという話になっているの。校長先生に聞いたほうがいいかな。

【北佐久農業高校長 村澤博富美】

生徒から指摘があることについては、我々教員のほうも、どういうケアをしなければ

ばならないかということで、課題として認識をしています。その解決手段としては、公共の交通機関ということが確かに一つあります。小海線を使って行く。もう一つが、先ほど知事にもごらんいただきましたけれども、実習に使っているようなバスがあります。しかし、それは、30人から40人が乗れる程度のもので1台しかないというのが現状であります。利便性を考えていくと、そういった台数の問題であつたりとかというところにも行き着くところがあるかと思えます。その具体的な手段については、検討していかなければならないと思っております。特にまた日常のクラブ活動等についても検討しなければならないというところで、検討途上です。

【長野県知事 阿部守一】

では私も、問題があるということだけは認識しておきますけれども。何か特定の行事のときは、県全体でもっと応援できないかなという気がしますけど。日常の交流を、ほかのところから車を借りてきてとかというのはなかなか難しそうな気がするから、それは、どうすればいいのかな。私もこれがいいですねと直ちにわからないですが、問題意識としてはきちんと持っておくようにします。ありがとうございました。

【生徒N】

お願いします。

【進行役生徒】

ありがとうございました。では今の知事の話を受けて何か意見のある人はいますか。ではほかに新校に関して意見のある人はいますか。

【生徒O】

先ほどの話にもありましたが、現在、学校の授業の一つとして、農業の6次産業化に柔軟に対応する知識や技術を学んでいます。1年生の時には、農工の学科連携科目である「産業基礎」で地域の産業構造や知的財産学習を行い、2年生の現在は、「環境地域基礎」で、工業や商業の分野や品質管理に関わる学習を行っています。これは、農業科の私たちばかりではなく、臼田高校の生徒や、岩村田高校の工業科の生徒にもまさに言えることなんです。一つの学年が一堂に会して授業を受けられるような講義室を設置してもらえないでしょうか。お互いの研究を発表したり、お互いの意見を出し合いながら情報を交換したり、知財や品質管理など社会人講師の講演を聞き、280名を収容できる教室は体育館しか今のところないので、ぜひよろしくお願いします。以上です。

【進行役生徒】

ありがとうございました。では知事の意見をお願いします。

【長野県知事 阿部守一】

これはやはり、校長に予算を渡すしかないなと思って話を聞いていました。施設整備で教室を新しく大きな教室をつくるといたら、どれぐらいお金があればいいのか、わからないよね。

【生徒○】

それはちょっと、細かな部分はわからないですね。やはり自分の側としては、ずっと全員で集まって授業を受けることができたかなと思っています。

【長野県知事 阿部守一】

ここ（浅陽会館）じゃだめなの。ここでは入りきらない。

【生徒○】

280名だと、椅子や机の関係もあるんで、難しいのではないかなと思います。

【長野県知事 阿部守一】

みんなと一緒に集まって授業を聞ける場所というのは、本当にないですか。入学式とか、そういうのはどこでやるんですか。今はない。

【生徒○】

キャンパスが別なので、来年でどうなるか、ちょっとまだわからないんですが。多分、別個でやるんじゃないかなと思います。

【長野県知事 阿部守一】

私もこのキャンパス、全部、隅々まで見てないから、ここでいいんじゃないかとも言えないし、そこは、正直、よくわかりません。だけど、一緒に何かみんなで勉強して話を聞ける場所が必要だというのは、それはそうかもしれないなと思いますので、それもまた、校長先生に聞いておきます、後で。

いろいろ学校を充実させる上での課題があるなというのは、皆さんの話からわかるので、県の予算も、今、新しく施設を建てたり、今、学校の統廃合をしたりする中で、相当、施設整備には、県全体の中での予算は振り向けてきています。あと特に高校の場合は、今まで、何というか、老朽化した校舎とか、そういうところも放置されすぎじゃないかということもあるので、学校の維持修繕経費も飛躍的に予算をつけたりしていますし、あと学校を初めとする公共施設の耐震化も、平成27年までに主なものは

全部耐震化に着手しようということで進めてきています。

学校、教育予算というのは、長野県の予算の中でも最もウエイトが今高く、そういう中でも、皆さんの今言ってもらっているようなことが、必ずしも十分実現できてないところは申し訳ないなと思いつつも、相当程度、施設整備にも予算を回しているということは、これ、間違いない事実です。ぜひそういうこともわかってもらった上で、では今あるものをもっと使えないかと、もっと有効に使えないかということも、ぜひ皆さんには考えてもらいたい。だけど、皆さんが言っていることは、そんなのは無理だというふうにむげに断るつもりもないんだけど。やっぱりお互い知恵を出し合って、今ある中で頑張ってもらおうということも大事だなと思っていますので、よろしくをお願いします。

【進行役生徒】

ありがとうございました。まだまだお話をしたいことがあるかと思いますが、時間の関係で意見交換会を終わりにしたいと思います。

日ごろ私たちが思っている問題について、知事と意見を交換することができて、本当によかったと思います。本日はこのような機会を設けていただき、本当にありがとうございました。

4 知事 結びのあいさつ

【長野県知事 阿部守一】

皆さん、ありがとうございました。

今日、本当にちょっと時間が短かったし、もっと言いたいこともあったかもしれませんが、私の答えも、何か皆さんの個別の課題には必ずしも十分答えられなくて申しわけないなと思っています。でも、皆さんの感覚の一端がわかったので、私にとってはとても有意義な時間でした。

皆さん、農業高校に学んでいて、いろいろなコースがあるので、少しずつやっていることは違うけれども、私は、これからの社会において必要とされていくものって、さっきスライドの中にも命という話が出ていましたけど。人間が生きる根源である食であったり、農業の農というのは、全ての分野に共通して必要になってくる分野であることは間違いないと思っています。

日本社会は、ずっと工業化を目指して、工業社会になる方向で大量生産して、大量消費して、画一的な社会で、そういう中で日本の地位を世界の中で築いてきました。そのこと自体は、私は必ずしも間違ってきた選択ではないと思いますが、多分、これから、今まで日本が発展してきた延長線上に日本の将来があるとは思えないですね。

多分、この画一的な社会の発展とは違う、多様な発展の形を目指していかないといけないと思っています。

そういう意味で、長野県であれば、やはり長野県の風土とか、土壌とか、長野県の特色、気候、そうしたものを生かして、いろいろなことをやっていかなければいけないと思っています。これは、もちろんその基本は農業だと、そういうことを集約されているのは農業だと思います。ただ、農業以外の分野も、農業的な視点、あるいは食の視点ということで、もっともっと考えていかなければいけない部分が増えてきていると思っています。

例えば、先ほどしあわせ信州食品開発センターの話をしましたけれども、長野県は健康長寿県ということで世界的にも知られるようになってきました。そうした中で、長野県の強みをどうやって発信するかということを考えたときには、やはり健康長寿と密接に関係しているのは、食、食べ物です。長野県が健康長寿になっているのは、野菜の摂取量が多いとか、農業に携わって年をとっても働いている方が多いとかですね。そういう意味で、実は健康長寿と農業というのは、切っても切れない関係。そういうものを産業としてもっとしっかり打ち立てていくとしたときに、着目したのが食品ということで、しあわせ信州食品開発センターを来年4月にオープンしようということで、今、取り組んでいます。

これは、6次産業だとか食品産業だけじゃなくて、長野県の観光業、観光も、農業だったり、食とすごく密接に関係しているわけですね。長野県は、おかげさまで、昨年、海外から来るお客さんが47都道府県の中で率的には一番伸びている。8割以上、前年比で海外のお客さんが伸びているわけです。観光を考えて振興していこうというときに、やっぱり人々が求めてくるものというのは、もちろん景色がいいねということもあるけれども、やはりそこへ行ったらどんな物が食べられるんだと。長野県でしか食べられない物は何なのかと、おいしい食べ物はどこにあるんだということは、一つ、観光を活性化させる大きな要素であることは間違いないです。

実は皆さんが勉強している食とか農というのは、狭い意味での農業だけではなくて、長野県の食品産業、製造業であったり、あるいは観光業であったり、あるいは教育、人づくりであったり、いろいろな分野の根っこに位置しているのが、食と農だと思っています。そういう観点で、ぜひ皆さんには、これからも誇りと自信を持って、この農業を学んでいってもらいたいと思いますし、卒業した後、さっきの話を聞いているいろいろな進路があると思いますけれども、ぜひこの北佐久農業高校で学んだことをしっかり生かして、それぞれの分野で活躍していってもらいたいと思います。

今日は大変いろいろな意見、充実した話し合いを聞かせてもらって、ありがとうございました。皆さんの一層の頑張りを期待して、私のお礼のあいさつとしたいと思います。ありがとうございました。

5 閉 会

【広報県民課長 土屋智則】

ありがとうございました。生徒の皆さん、ありがとうございました。進行もご苦労さまでした。それでは、以上をもちまして、県政タウンミーティング in 北佐久農業高校を終了といたします。ありがとうございました。

【長野県知事 阿部守一】

どうもありがとうございました。